

講演会・カンファランス等のご案内

北九州地区小児科医会のご案内

第569回北九州地区小児科医会例会 (WEB開催)

日時：2021年5月20日 (木) 19:15~20:30

演題：「てんかんの薬物療法 新たな展開へ
ペランパネルの2段階療法」

演者：医療法人清照会湊病院北東北てんかんセンター
センター長 兼子直 先生

▼ZoomによるWEB配信を予定しています。 <https://zoom.us/join/98096773726>
webinar/register/WN_c2FacPqwQEmoGPFerSs6mg
ID:980 9677 3726 Password:Eisai0520

第570回北九州地区小児科医会例会 (WEB開催)

日時：2021年6月17日 (木) 19:15~20:30

演題：「腸内細菌と脳腸相関」

演者：九州大学大学院医学研究院 心身医学
教授 須藤 信行 先生



▼ZoomによるWEB配信を予定しています。 <https://zoom.us/join/98096773726>
webinar/register/WN_lcmH5tucQ9SuZ-1GSKU1zA
上記もしくはQRコードより登録を行ってください。

産業医科大学カンファランス・セミナー

現地とWeb配信のハイブリッドで開催いたします。
Webでの参加をご希望の先生は、
j-syoni@mbox.med.uoeh-u.ac.jpまでご連絡願います。
後日、参加方法の詳細をお知らせいたします。

産業医科大学小児科クリニカルカンファレンス

日時：5月10日 (月) 19:00~

場所 産業医科大学大学2号館2208教室

演題：抗N-methyl-D-aspartate (NMDA) 受容体抗体脳炎

演者：産業医科大学小児科 柴原 淳平 先生、福田 智文 先生
石井 雅宏 先生

※5月の産業医科大学小児科セミナーはお休みです。

産業医科大学小児科クリニカルカンファレンス

日時：6月14日 (月) 19:00~

場所：産業医科大学大学2号館2208教室

演題：治療可能となったNICUで診療する骨系統疾患Update

演者：産業医科大学小児科 荒木 俊介 先生

産業医科大学小児科セミナー

日時：6月24日 (木) 18:00~

場所：産業医科大学大学2号館2208教室

演題：これだけはおさえておきたい！糖代謝異常

演者：産業医科大学小児科 島本 太郎 先生、多久 葵 先生
齋藤玲子 先生

その他講演会などのご案内

第436回小倉小児科医会臨床懇話会(Web 講習会)

日時：2021年5月27日 (木) 19:00~

場所：WEBのため、事前申し込み

演題1：「新生児慢性肺疾患児のNICU退院後の管理
(仮)」

演者：国立病院機構小倉医療センター 小児科

演題2：「当院で入院加療を行ったCOVID-19の小児例
(仮)」

演者：国立病院機構小倉医療センター 小児科

<要事前申込> 連絡先:小倉医師会 TEL.093-551-3181

第436回小倉小児科医会臨床懇話会(Web 講習会)

日時：2021年6月24日 (木) 19:00~

場所：WEBのため、事前申し込み

演題1：「予防接種における間違いを防ぐために」

演者：北九州市立医療センター 小児科 明 祐也 先生

演題2：「嚢胞腎 (PKD) を見つけたら」

演者：北九州市立医療センター 小児科 渡辺 ゆか 先生

<要事前申込> 連絡先:小倉医師会 TEL.093-551-3181

保険診療メモ (202104)

令和3年春期福岡県小児科社保・国保審査員連絡会の報告 (1)

例年ですと前年11月に九州各県持ち回りで開催される九州小児科医会審査委員連絡協議会での協議事項をご報告する保険診療メモですが、昨年の宮崎県担当の会議はコロナ禍のために中止となりました。重要案件として、院内トリアージおよびパリビズマブ（シナジス）に関してのみWeb会議の形で開催されましたが、各県で事情が異なり全県で足並みが揃って報告できる結論に至りませんでした。今後も両者については医療機関ごとに個別の対応となります。

事前に各県から議題とその回答が寄せられましたので、福岡県小児科社保・国保審査委員連絡会では問題となる議題を中心に3月21日に協議を行いました。以下はその結果のご報告となりますが、紙面の都合上、今月は「基本診察料など」と「診断・検査」についてのみとし、「治療」は来月行う予定です。

(基本診察料など)

Q-1) 心身医学療法に「適応障害(心身症)」や「多動性障害(心身症)」は算定可能か？

A-1) いずれも身体症状を呈する傷病名とは言えないので、適応となりません。対象疾患については小児心身症学会HPなどを参考にしてください。なお、2015年1月分の保険診療メモ「心身症と心身医学療法」で詳細に説明しています。

Q-2) 急性上気道炎、RSV感染症、急性中耳炎の傷病名で小児抗菌薬適正使用支援加算の算定を認められるか(急性中耳炎の傷病名があると認めない?)

A-2) 適応は厚労省のチャートに拠ります。単独病名の場合、中耳炎のみが該当しません。他の疾患に「中耳炎」が併記されていても、他疾患が該当すれば問題ありません。なお、保険診療メモでは、「小児抗菌薬適正使用支援加算についてのQ&A」(2018年8月)、「小児抗菌薬適正使用支援加算について—九州協議会での議論」(2020年1月)などで詳細を記しています。

Q-3) 「手足口病」の病名で小児抗菌薬適正使用支援加算は算定可能か？

A-3) 単独では厚労省のチャートの冒頭で適応外となります。気道感染症の症状があり、それを表す傷病名が併記されていれば認められます。

(診断・検査)

Q-1) バルプロ酸内服中のアンモニア測定に関して、薬剤性高アンモニア血症(疑い)が必要か

A-1) バルプロ酸投与がレセプトや処方箋で判断できる場合は慣習上、傷病名なく認めています。安定期では6か月間隔で充分ですので、頻回検査には傷病名や詳記が必要です。

Q-2) 蕁麻疹の病名で非特異的IgE抗体の算定は可能か

A-2) 現時点の福岡県では蕁麻疹のみの傷病名で認めています。ただし、他県のほとんどが蕁麻疹単独では認めておらず、他のI型アレルギー疾患の病名(疑いも可)の併記を求めています。広義には寒冷蕁麻疹や慢性蕁麻疹なども含まれるためです。将来的に全国統一の審査基準に備えて、食物アレルギー(疑い)等の傷病名を併記しておくことをお勧めします。

Q-3) 急速進行性糸球体腎炎(疑い)でPR3-ANCAは算定可か

A-3) 診断・治療の遅れで致命的な事例もあり、検査は妥当と考えます。

Q-4) 「肥満症、脂質異常症疑い」でIRIは算定可か

A-4) IRIは原則として糖尿病確定診断後の患者に対してのみ適応となっています。糖尿病(疑い)の病名が必要ですが、ルーチン検査としては過剰であり、病的肥満(150%)など必要性が分かるコメント付記が望ましいと思います。

Q-5) 代謝性アシドーシス(疑い)で血液ガスと乳酸の併施は算定可能か

A-5) 乳酸測定が必要な傷病名があれば、併施は認められます。

Q-6) 難治性ネフローゼへのリツキサン適応拡大があったが、投与前の検査(HB再活性、結核等)の検査項目、間隔(通算回数)に制限があるか

A-6) 使用前に添付文書とともに「リツキサン適正使用ガイド(メーカー)」、「B型肝炎対策ガイドライン第2版(厚労省)」を熟読してください。検査項目や検査回数については前記のガイドラインに詳述されています。レミケードとは違い、リツキサンでは結核に対する検査は不要とされています。保険診療メモでは、「消えないウイルスとの戦い(2017年12月)」や「免疫抑制剤・化学療法等におけるB型肝炎関連検査(2019年2月)」で解説しています。参考にしてください。

Q-7) 入院中の心臓超音波検査回数について。(重篤な心疾患や術後心疾患を想定して)一日で複数回の検査が認められるか

A-7) 原則1日1回と考えますが、心タンポナーゼ例で穿刺等を要するような事例で、コメントがあれば処置前後2回は認められます。入院中に日々病態の変化が認められ、治療法の検討・変更を要するなど詳記があれば、連日であっても必要な回数は算定可と考えます。ただし、実際の重症例は、DPCや小児入院管理料(1または2)の医療機関で行われていることが多いため、あまり目にしません。出来高算定の入院例や外来診療では注意が必要です。

(福岡県小児科審査委員連絡会)

役員会報告 (5月6日：木曜日)

新型コロナウイルス感染症への対応について情報交換・協議を行ないました。

5月6日議事録：

福岡県も変異株の割合がだいぶ高くなってきているようです。今後も開業医と病院が連携を取りながら子どもたちを守っていけるようにしましょう。

現状では、感染経路不明というより子供はほとんどが親族等からの濃厚接触者のようです。

自験例では47人行って、陽性者は2人でした。1例は家族内の濃厚接触で、曾祖父母から感染したと聞いています。その際は、全スタッフ、園児等調査されたが、とくに問題はなかったようでした。

福岡市ではだいぶ出ているようですが、大学レベルでもでていようです。他の地域から見ると、北九州のほうがすくないのですが、福岡県全体としての目で見られるので、止む終えないでしょうか。

某保育園では祖父母から孫に感染や保育士さん3名の感染などもあったようだが、それ以降は感染が出ているという話はない。感染の経緯が子供同士ということはまだないようであるが。

Q:今後は子供同士でうつし合うということはあまり考えないで良いのでしょうか。

マスコミレベルではありますが、東京の方では、休校にするという話も出ているようですが。

A:現在のところははっきりとした情報はもちあわせておらず、あまり誰も答えは持ち合わせていないと思います。今までのクラスター等の様子を見てみると児童同士というより先生や親等からの濃厚接触としての感染が多くみられていました。

今後に関しては、変異株等の兼ね合いもあるのかもしれませんが、濃厚接触になれば感染する可能性はないとは言えないでしょうし、福岡県南部の動向を見ていると、感染経路不明（濃厚接触者が不明）の10歳未満の児などもいましたので、今までの考えも通用しないのではないかとということになってくるかもしれません。基本的な予防策等は取る必要はあるでしょう。

その他、全体的な印象としては、挿管例がふえており、高齢者よりももう少し若い人が増えている印象です。ただ、市内在住の方だけではなく、県内の方が入院になっているので、そのあたりははっきりと言えないところですが。

ホテル療養に関しては、北九州地区の2箇所目としてJR九州ホテルと交渉中と聞いています。

ワクチン接種に関しては、各地区ごとに進み具合がだいぶ異なっているようです。あまりコールセンターも機能している印象はないようですが、少しずつは改善している様子です。

八幡のPCR検査センターは保健所からの依頼に関しては、産業医科大学の先生がPCR検査センターに出務していただくことになり、開業医の出務は、一旦終了となったという話がありました。小児科専門医で20施設くらい検査に対応してくれるようになったというのも大きいのかもかもしれません。

役員会報告（5月6日：木曜日）

会員異動報告

★原口宏之先生が5月2日にご逝去されました。（享年84歳）
謹んでご冥福をお祈りします。

★勤務医入会

北九州市立総合療育センター

坂口 美奈子（明石市立ゆりかご診療所：2021/4/1付）

河野 敦子（福岡市立こども病院：2021/4/13付）

協議事項・報告事項

1) 今後の例会について：

ZOOM等での開催となるため、北九州地区小児科医会のみでなく、福岡県全体の小児科医会にも案内の配信することにした。

2) 第31回全国病児保育研究大会：

吉田雄司先生会頭10月9日10日に会から10万円の寄付を行う事にしています。

3) 新入会の方で、ML登録をご希望の方はアドレスとともにご連絡ください。

委員会報告

1. 学術委員会報告：白川嘉継

7月15日 WEB開催 日本新薬株式会社

8月 休会

9月 ワクチンフォーラム 未定

5月10日世話人会の予定

10月21日予定 WEB配信 株式会社ツムラ

演者未定（仮）小児における漢方薬の使い方

11月予定 第一三共

インフルエンザ関連

福岡歯科大学教授 岡田賢司先生予定

12月予定 塩野義製薬

新型コロナ関連演題

2. こども健康ニュース委員会報告：三宅巧

4月26日に委員会を行いました。

今後年2回程度の発行は検討することになっています。

今後の健康ニュースのテーマとして

1) マスク、手指消毒、ステイホームなどのコロナ対策

2) 発達障害児への対応：ADHD, ASD, 発達の特性、MSPA, SDQ等

3) 5歳児健診、子育てアドバイスのシリーズ化などを検討しています。

その他、COVID19のため、委員会は行われておりません。